

# 理事長所信（案）

松本 剛

## 【はじめに】

地域社会の再建が、明るい豊かな国家を築き、そして世界に貢献する日本へ。

1949年、「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という覚悟の下、明るい豊かな社会の実現を目指し、青年会議所運動が始まった。その設立趣意書において「苦難を打開してゆくのに採るべき途は、国内経済の充実と国際経済との密接な提携」と宣言した。そして、1951年10月の青年会議所、総勢506名により、日本青年会議所が設立された。

日本青年会議所の設立当初は、第二次世界大戦終結から間もない時であり、何もかもが満足になく、数多くの困難な問題に直面している中で、私たちの先輩は、熱い情熱と未来の日本を創造するためには、自分たちがやらなければならないという覚悟を持ち、目の前の困難から逃げることなく、今日の日本の礎を築いてこられた。

現在の日本は、デフレ経済、少子高齢化、空き家の増加、国民医療費の高騰など、数多くの問題に直面し、解決すべき課題が山積みとなっている。我々が住み暮らすこの地域も例外ではない。この一つひとつの課題を他人事ではなく、我々青年経済人がしっかりと向き合い解決していくことも使命だと考える。

創立から脈々と受け継がれている青年会議所の創始の志に立ち返り、熱い情熱をもって、地域の明るい豊かな社会の実現を俺たちが行うという覚悟を持ち、今の自分の行動の先に明るい未来を描き、前を向いて運動を続けていこう。描くことができる未来は、必ず実現できると信じて。

裾野青年会議所が設立して、本年度で50年が経とうとしている。数多くの先輩諸兄の皆様がこのまちのために運動、そして活躍してこられた。時代に合わせてその運動・事業の内容は違うが「まちのため」「自らの成長のため」そして、「人のため」志高い仲間とともに運動を展開してきた。そして我々は先輩方が過去の活動の中で築き上げてきたつながりや地域からの信頼を、その想いを引き継ぎ未来へと継承していく責任がある。そして、我々は明るい豊かな社会の実現を掲げ運動している同志である。同時に経営者・後継者であり地域のリーダーとなるべき人物である。そんなメンバーが集まって意見を真剣にぶつけ合い、このまちの未来を想い同じ方向を目指して進んだとき、裾野青年会議所はより力強い絆が生まれ、そして力強い組織へと進化し、このまちを力強く輝かせることができると確信している。

時代のめまぐるしい変化を的確にとらえ、守るべきものは守り、変えるべきものは変え、変わることを恐れず常に新しいことに取り組んでいこう。

49年にも渡り、青年会議所運動を続けている裾野青年会議所において、2020年度の理事長の職をお預かりできる機会を与えていただきました全ての皆様に感謝申し上げ、創始の志に立ち返り、熱い情熱とこのまちの明るい豊かな社会の実現は我々が行うという覚悟を持って、青年会議所運動に邁進して参ります。

## 【夢を描ける子供の育成】

子供たちは、未来を担っていく存在であり、この国の宝である。

昨今、幼児虐待、インターネットやSNSを使用したいじめによる自殺や不登校など、悲しい出来事がとても多く、子供たちを取り巻く環境はとても不安定な状況にある。また、昔に比べ夢を持つこと自体も難しくなっているのが現状であると考えます。しかし、そのような変化の激しい時代であっても、子供たちには夢を持ち、仲間との絆を大切に、生きてほしいと考える。

2020年度は、我々裾野青年会議所と、友好JCである公益社団法人島尻青年会議所と、青少年育成事業を開催したいと考えます。毎年のように事業を共に開催していたが、2014年より、同時開催の事業を出来ておらず、5年ぶりの2019年、富士登山事業を行った。本年度は、沖縄の地で開催予定の青少年育成事業に参加をして、この地域の子供たちに、他の地域の子供たちと「絆」をテーマに、10年後20年後もお互いを思いやり、一生涯付き合っていけるような仲間作りをしてもらいたいと思います。

ここ近年では、ゲームや携帯電話の普及により、室内遊びの機会の増加、事件ばかり多い社会不安により遊ばせる場所の減少、地域での世代を超えた交流の減少など、自分たちの住む地域で楽しい思い出や、その中で生まれる人とのつながりを得られる機会が、私たちの時代より明らかに減少していると思う。思い出が少なければ地域への愛着も関心も育たない。かけがえのない故郷ではなく、ただ生まれ住んでいる地域へとならぬよう、子供たちがこの地域に夢を描き、この地域に誇りをもって未来に向かって進んでいけるように、様々な体験をさせていきたいと思います。その経験をもとに、未来を創造し自ら考えて行動のできる子供たちの育成こそが、我々の使命であると考えます。

子供たちは無限に可能性がある。私たち大人が夢を持つことの大切さ、その夢を実現するために努力することで得られる喜びを、学びを伝え未来を担う子供たちには、様々な体験や出会いを通じて、夢を描けるようになってほしいと考えます。

成功も失敗も、経験のすべてが子供たちの成長の糧となるよう事業を構築し、子供たちだけではなく、我々大人も気づきに出会おう。

## 【会員の資質の向上は拡大につながる】

青年会議所は年齢制限のある団体である。限られた時間の中で常に自己研鑽に励み、努力を惜しまず、地域社会を改善する政策を掲げ、市民意識を変革する行動によって、故郷を少しでもより良くしたいと志を抱き、何事にも挑戦する青年の集いだと信じている。しかし、年々会員数は減少を続け、新たな会員を獲得していかなければ衰退していくのは明白である。会員の減少により事業の縮小を選択せざるを得ないLOMもあれば、さらには解散を余儀なくされたLOMも存在する。裾野青年会議所にとっても、もはや他人事ではない。メンバー全員が現状を把握し危機感を持って拡大活動に取り組んでいく必要がある。同じ志を持った仲間を増やすことで、我々の運動をより多くの人へ伝えていき、メンバー一人ひとりが裾野青年会議所の運動や仲間とのつながりに誇りを持ち、その魅力を伝えることができる。そんな拡大をしていきたい。また、自分が入会をしたとき、何を理由にこの組織に入会したか覚えているだろうか。裾野青年会議所の活動に魅力を感じて入会した人もいれば、自分を勧誘した人がその人だったからこそ、この組織に入会した人もいるのではないのでしょうか。我々の活動やメンバーの魅力をもっと本気で伝え、一人ひとりが広告塔であるという自覚を持ち、真剣に活動に取り組まなければな

らない。「人を成長させるのも人である」「人は人でしか磨かれない」私がこの青年会議所に入会した時、ある先輩が言った言葉である。今まで多くの先輩方から様々な事を学んできた。事業から学んだ事、背中を見て覚えた事もある。

なぜ年齢制限があるのか。その時、その時間、その仲間ではできない限りある運動を同志との絆をもって果敢に挑戦していこう。

何のためにJC運動をしているのか。導く立場として自分に何ができるのか、今一度考え、新たなスタートへ挑戦していこう。

### 【50周年に向けて】

裾野青年会議所は本年度で創立50周年を迎える。1971年にチャーターメンバーが集まり「裾野市の発展に奉仕する」「世界の平和を願う」「人類の福祉向上に寄与する」を創始の精神として掲げ、その想いを今日まで受け継いできた。また、多岐に渡り、裾野青年会議所をこのように素晴らしく発展させていただきました諸先輩方に、感謝の気持ちをもって記念式典を開催する所存でございます。

諸先輩方が築きあげられた伝統を継承しつつ、49年の歴史を振り返り、新たな未来へと繋がるビジョンの発表を行う事、人と人の繋がりを大切に、当事者意識を持ち主体的かつ前向きに取り組み、心をひとつにし、絆をもって50周年事業を開催いたします。

### 【結びに】

平成の時代30年の長きに渡り、天皇皇后両陛下が、常に私たち国民に心を寄せて下さり、深い慈しみと温かな励まし、そしていかなる時にも安らぎを下さったことに対しまして、心より感謝申し上げます。

30年続いた平成という一つの時代が終わり、新しい時代を迎える中、その新たな時代を創っていくのは私たち青年世代であり、明るい豊かな社会を築き上げていく事、どんな苦労や困難にも挫けず、自分が住まう地域の未来、子供たちの未来を見据え創造していく事こそが、我々JA YCEEに課せられた使命だと思えます。人間として青年経済人として、そして理事長として地域のリーダーとなり、次の世代がもっと元気になるために、私たちが今、本気で考え行動して地域を劇的に変えようではありませんか。

皆、仕事をし、仲間、そして家族に支えられながら青年会議所運動をしています。生きていく上で必ず人は一人ではないのです。人との出会いが一番勉強になると私は考えます。その一つひとつの出会いを大切に青年会議所運動を、そしてこれからの人生に邁進していく所存です。

新時代「令和」を迎え、我々裾野青年会議所は半世紀という節目の年でもあります。我武者羅に飛ばしてきた49年間、ここで一度立ち止まり、過去を振り返り、古き良き時代を思い出し、新組織への構築を軸に、一人ひとりに感謝の気持ちを忘れずに、足並みを揃え新たなスタートを切ろう。

この小さな声一つひとつを集め、誰ももの耳に確実に聞こえる大きな声に皆でしていこう。

何にでも挑戦しよう、何度でも挑戦しよう、ダメなら長い助走をつけて。

2020年度

公益社団法人 裾野青年会議所

スローガン

地域との連携 同志との絆  
出逢いと繋がりを力にかえろ